

校長室からこんにちは!

No. 27

1月10日

発行者 中田 禎二

夢・仕事

皆さんはどんな初夢をご覧になりましたか。

夢といえば、私は中学校のとき某航空会社を舞台にしたテレビドラマに夢中になったことがあります。海外旅行なんて夢のまた夢。せめてもと、画面の向こうに広がる海外に憧れを持ったものです。そこで調子者の私は、その航空会社の客室乗務員になりたいくて、我慢できず、「どうしたらよいか教えてください」と手紙を出しました。すると何と返事が来たのです。嬉しくてドキドキしながら急いで中を開けると…、読んでがっかり、「そのためには今の学校の勉強を頑張ってください」との文面に。

もちろん当然の回答ではあります。でも夢を抱く身としたら具体的な方法が聞きたかったのです。

それから、勉強を頑張らなかつた私は鶴のマークの会社を受験することもなく、他の道へ歩んだわけですが、教師となって、私は子どもによく夢を語ります。そして、できるだけそれを叶える具体を伝えるようにしています。

夢は人を強くすると言います。夢は人を育てると言います。でも思い通りにならないのも夢です。ですから、夢に抱いた仕事に就けないからといって、夢敗れたり、という考えだけは持ってほしくありません。たまたまでもいい、就いた仕事を通してどう自己を高めるか、どう社会に貢献するかという「志」を持って臨むことで夢は新たな展開を生むものだと思います。

昨年、下水処理施設に見学に行ったときの中学生の感想が心に残ります。その生徒はそこで働く、私も注目したシニアの技術者の説明に感動しただけでなく平生の仕事ぶりも想像し、「職場では手を抜いてはいけないということが分かった」と結んでいきます。私は仕事の基本に気付いたこの子が、将来どんな夢実現を果たすのかが楽しみです。

ところで、巳年は蛇が脱皮することから、「新しい自分に生まれ変わる年」「人生の転機とする年」だそうです。またその思いは感謝と誠実によって実現されるということです。私はこの話を始業式で紹介し、学校生活を通して夢を抱き夢を膨らませてほしいと語りました。

運動会を始め大きな行事が目白押しの3学期、それらに真剣に取り組ませながら夢の土台作りを行っていきたいと思います。ドーハ日本人学校の親も教師も、巳年の一年、何でもいから、「チャレンジ」する年にしませんか。『今年もどうぞよろしくお願いいたします』

校長写真館



新しい年、どれだけ伸びたかな?
心も体も大きくなあれ、ドーハっ子!

ちょっとお耳を…

年末から年始にかけて日本で過ごすことになった。

日本で55歳になった。父親が定年退職した年になった。

そこで、いい年をして気付いたこと。それは、子どもたちへの口癖。…人と人の絆の大切さ。家族の有り難さ。そして、今、自分がここに立っているのは、自分以外の人のお陰、ということ。

こんな当たり前のことが分かっていなかったことを痛感した、行く年来る年になった。